



## 理事会の開催 - 9月22日

9月22日(金)、福井市順化2丁目のいわし屋にて、理事会が開催されました。Vol. 39でお知らせしましたように、“敦賀市エネ高事業と福井県エネ高事業による業務の受託”を主な議題としました。

中山代表理事の挨拶の後、事務局からそれら議題が説明され、議論されました。主な内容は次の通りです。

(1) 敦賀市が国に申請したエネ高事業が採択され、ふくい水素エネルギー協議会は「水素サプライチェーン広域化・大規模化実現可能性調査業務」を受託しました。事業実施にあたり、ふくい水素エネルギー協議会と敦賀市が協定を結び、その内容が福井新聞の記事(9月13日(水))となりました。協定によって、①敦賀市を中心とする水素サプライチェーンの構築に向けて、両者が有する知的、物的、人的資源を活用し、地域を支える新たな水素インフラ設備を活用した地域産業の育成等を実施すること、②ふくい水素エネルギー協議会は、再生可能エネルギー由来の水素からFCV充填、電力熱供給、BCP機能を提供する設備の実証及び水素サプライチェーンの構築に向けた調査・研究を行うこと、③敦賀市を中心とする水素サプライチェーンの構築に向けた事業体制及び事業計画の策定並びにインフラ設備の普及及び啓発活動並びに地域産業の育成等の各種事業を行うことになりました。

(2) 福井県が国に申請したエネ高事業が採択され、ふくい水素エネルギー協議会は「おおい町での小型水素ステーション導入にかかる事業可能性調査業務」を受託しました。事業実施にあたり、ふくい水素エネルギー協議会、福井県、おおい町が「水素サプライチェーン構築に向けた連携協定」を、おおい町役場で、10月25日(水)に締結します。協定によって、相互が持つ知的、物的、人的資源を活用し、地域を支える新たな水素インフラ設備の実用化に向けた技術検証や、水素産業の育成に向けた実証を行い、福井県おおい町および周辺地域における水素サプライチェーンを構築し、地域の発展に寄与することと、①水素製造・供給実証施設の整備、②水素製造・供給実証施設の運用、③水素エネルギーの需要創出および利活用、④水素エネルギーを活用した地域振興について連携協力することになります。

これら事業の受託が理事会として承認されました。また、北陸技術交流テクノフェアでの展示内容などの報告があり、これらについても承認されました。



図1 理事会の開催(9月22日(金)、いわし屋)

## “北陸技術交流テクノフェア2023”でのブース展示 - 10月19日、20日

10月19日(木)と20日(金)の2日間、福井県産業会館で開催された北陸技術交流テクノフェアに“ふくい水素エネルギー協議会”としてブース展示しました。ブースは、2号館(図2の赤の○)の入口から入って、右側通路のほぼ中央(図3の赤の○)で、2方が通路の人通りの多い良い場所でした。「環境」分野のブース(図3の黄緑)が多く集まる場所で、「環境」意識の高い人が多くブースにお越し頂いたように感じます。展示ブースの状況を図4に、ブース訪問者への対応風景を図5に示します。ブースでは、協議会の活動や「水素」の利活用の方法などを示すパネル、会員である日東工器の「カプラ」の実物とパネル(図6)、ナカテックグループが開発した高圧水素用配管の溶接技術を示すパネルと溶接試験片を展示するとともに、「水素エネルギーの利用で脱炭素社会」の映像を来場者に視聴して頂きました。

水素や再生可能エネルギーの利活用の必要性の理解が進み、ふくい水素エネルギー協議会の今後の更なる活動が期待されていると感じました。



図2 テクノフェアの会場(福井県産業会館)建物配置図と、ふくい水素エネルギー協議会がブース展示を行った2号館の位置(赤の○)

